

平成 26 年 9 月 8 日（月）17:10～18:10 大阪府立大学 学術交流会館
合同フォーラム 学生リーダー会企画

14 大学共同学生プロジェクト
行動から始まる私たちの大学
～学生から学生に届けよう～

報告書

『分科会 学生企画』
『パネル展示』

- ・ 追手門学院大学 社会学部 2 年 清家佑介
- ・ 関西外国語大学 国際言語学部 2 年 中山 真友花
- ・ 帝塚山学院大学 人間科学部 3 年 田中 雄之
- ・ 大阪成蹊大学 マネジメント学部 3 年 河野 裕子

●学生リーダー会とは

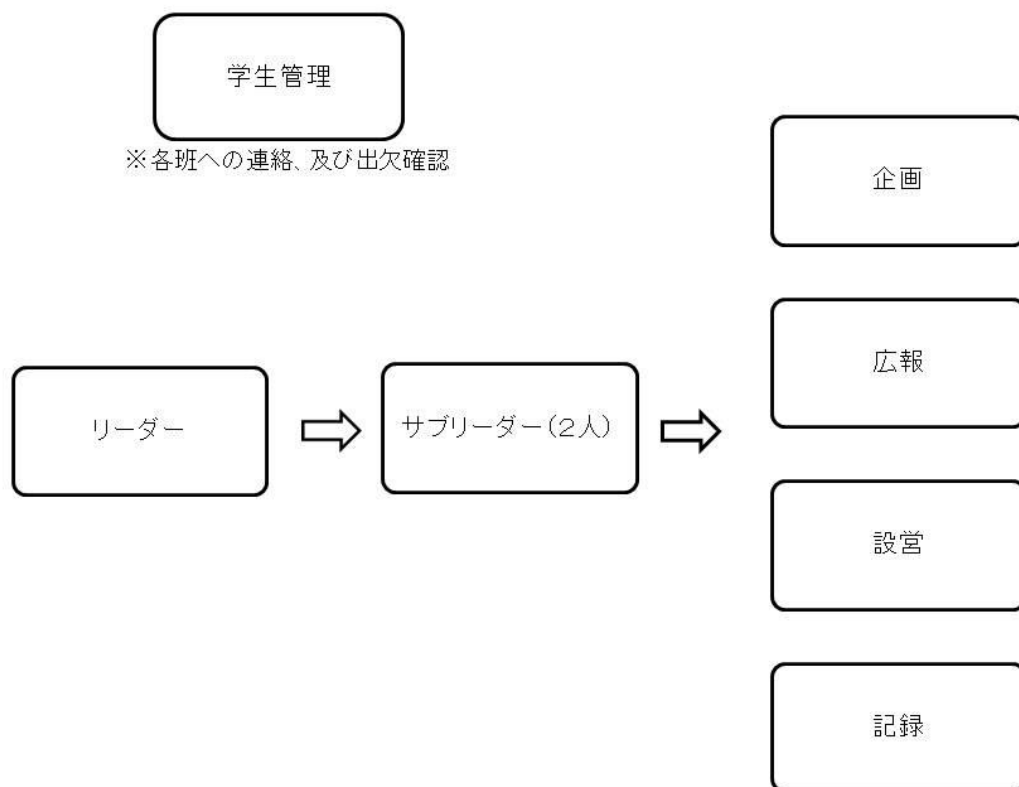
学生リーダー会は関西 B ブロックに属する 14 大学（和歌山・大阪府立大学・兵庫県立大学・追手門学院大学・大阪音楽大学・大阪工業大学・大阪成蹊大学・関西外国語大学・摂南大学・帝塚山学院大学・芦屋大学・追手前大学・神戸学院大学・大阪音楽大学短期大学部）それぞれから推薦された大学生が集まり、14 大学合同フォーラムで産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業に関する学生企画を行う

●活動内容

平成 26 年 5 月に発足して以来、本番の平成 26 年の 9 月 8 日までに全体としては全 14 回の全体企画、会場下見、前日準備を行った。

●組織図

リーダーを置き、その補助としてサブリーダーを二人配置した。その他のメンバーには企画班、広報班、設営班、記録班のいずれかに所属してもらい、そして各班への連絡及び出欠確認のため学生管理を設置した。



『分科会 学生企画内容』

平成26年度学生リーダー会

学生リーダー会 学生企画 企画書

テーマ

行動から始まる私たちの大学～学生から学生に届けよう

ターゲット

三者（大学生、大学、産業界等）

目的

- ① 学生リーダー会が主体となり実際に行動する学生を体現する
- ② 受動的な学生に行動を起こすきっかけを与える

※ここでいう受動的な学生はきっかけを与えれば行動する学生を指す

目標

自ら行動する学生を増やす

方法

- ① 教職員/学生向けのアンケートを別々に収集してリストアップする。
- ② ①を集計・分析・考察する
- ③ ①～②を踏まえたうえで意識改革きっかけ案を発案する
- ④ 意識改革きっかけ案の中の2つを実際に行い学生が本当にやる気を出すのか、情報を得てきっかけを得ることができるのかを検証することを発表
(SNSで決意表明とランチタイムミーティングなど)
- ⑤ ④の2つの企画に参加してくれた学生にアンケートをとり12月の報告書に検証結果として記載する。

[illegible]

時間配分	内容
4分	①リーダーの挨拶 ●司会(司会者)・・・30秒 ●リーダーの挨拶(リーダー)・・・3分30秒 →今回の企画に至るまでの経緯・背景を説明する。
	②本日の流れ&アンケート結果 ●司会と本日の流れ説明(司会者)・・・2分 →本日の企画がどのように進行していくのかの説明。 ●アンケート結果発表(発表者2人)・・・7分 →職員向けアンケートと学生向けアンケートの結果を発表する。
	③アンケート結果の分析 ●司会(司会者)・・・1分 ●分析結果発表(発表者2人)・・・7分 →アンケート結果の分析の発表し、それに対するリーダー会の見解も発表する。
3分	④学生を動かすための「アプローチ先」 ●司会とアプローチ先説明(司会者)・・・3分 →学生・大学・リーダー会の関係性について図を交えて説明する。
	⑤学生リーダー会 Try to actプロジェクト ●司会(司会者)・・・1分 ●これまでのまとめ(発表者)・・・2分 →意識改革案を発表する前に今日の発表を振り返る。 ●意識改革案発表(発表者3人)・・・28分 ○意識改革きっかけ案Ⅰ「学生掲示板」(発表者)・・・4分30秒 ○意識改革きっかけ案Ⅱ「学生シラバス」(発表者)・・・4分30秒 ○意識改革きっかけ案Ⅲ「教授図鑑」(発表者)・・・4分30秒 ○意識改革きっかけ案Ⅳ「SNSをつかった決意表明」(発表者)・・・4分30秒 ○意識改革きっかけ案Ⅴ「がっこん～大学交流コンパ～」(発表者)・・・3分15秒 ○意識改革きっかけ案Ⅵ「学生すけだちGP」(発表者)・・・3分15秒 ○意識改革きっかけ案Ⅶ「ランチタイムミーティング」(発表者)・・・3分30秒 ●改革案の実施表明(発表者)・・・1分 →SNSをつかった決意表明をその場で公開、及びランチタイムミーティングの実施予定を発表する。 ●意識改革案のまとめ(発表者)・・・1分 →Try to actプロジェクトのまとめと大学への協力をお願いをする。
	⑥お礼 ●司会からのお礼(司会者)・・・30秒 ●リーダーからのお礼(リーダー)・・・2分30秒 →今回の企画全体のまとめと来場者へのお礼をする。

●学生リーダー会の活動記録

私たち学生リーダー会は、まず産業界とはなにか、大学の役割とはなにか、という二つの大きなテーマを元に議論を進めた。だが今回、我々が取り組んだ議題が非常に結論を出しにくい議題であったということと、参加者全員が産業界など初めて耳にする事柄が多く、議論を進めようにも中々思うように進まない、というのが現状であった。

現状打破の為、錯綜していた議論を元に各々、企画書を作成して貰い会議にて発表の場を設けた。結果、15個の案が発表され、その内5つの発表に「理想の大学」という言葉がキーワードとして盛り込まれていた。学生にとっての「理想の大学」は、学生にしかわかり得ない、しかし学生の意見を踏まえて本当の「理想の大学」を作るのは大学関係者をはじめとする大人たちだ。

「行動を起こしてない者、即ち学生が意見する権利は無いのではないか」「私たち学生リーダー会から行動する学生になろう」という意見の元「理想の大学」を作ることを目的に「行動から始まる私たちの大学～学生から学生に届けよう～」をスタートさせたのであった。

テーマに関して議論をしていた折に、次のような事実が浮き彫りになった。大学は就職や大学生活、その他にも様々な情報をあらゆる手段で学生に発信してくれている。しかし、それに対して学生は情報を受け取れていない、または受け取っていない学生が多い。「大学は様々なことをしているが学生は自ら情報を手に入れに行動していないのではないか？」という漠然とした疑問が前述したテーマ決定の第一歩となったのだ。

テーマ決定後、私たちリーダー会はどういった学生が行動をするべきなのか、という疑問を分析する為に①行動する学生②受け身な学生③動かない学生の3つに分類をした。結果、②の受身な学生に働きかけ行動する学生を増やすことに着目し、学生が自ら行動するような環境、きっかけ作りの足掛かりとなる企画を思案し始めた。冒頭で述べたとおり、学生に働きかけるためには大学だけでなく学生にも働きかけてもらわなければ効果が無いのではないかという考えが前提にある。「ならば、学生リーダー会のメンバーがそれぞれの大学で、大学と学生のパイプ的な存在になるべきだ」という結論が出た。つまり、先ほど分類した①、②、③の学生に当てはめると①学生リーダー会メンバーが主体となり、実際に行動する学生を体現する②受動的な学生に行動するきっかけを与える③行動しない学生も周りの学生に変化が訪れれば自ずと変化するのではないかという推論ができたのだ。その推論を実現させるため合同フォーラムにて発表されたものが意識改革案である。意識改革きっかけ案は①学生掲示板②学生シラバス③教授図鑑④SNSで決意表明⑤大学交流コンパ～がっこん～⑥学生すけだちGP⑦ランチタイムミーティング の計7つから成る。

①学生掲示板

学生が経験したことやその経験から成長できた点、夢中になれたきっかけ、または学生自らが主催するイベント、そのアピールポイントを学生から学生へ情報を発信しようという案である。学生に目的・目標を持ってもらうための手助けとして、学生にとってより身近なSNSを使って情報を発信する手段を考えた。そこに、学生が参加した活動記録、主催するイベント、何を経験してどう成長できたか。とにかく経験したことを随時報告していく。

②学生シラバス

この案は、対象の授業を履修したことがある学生が主体となり、学生自身のシラバスを作り発信することで新たに授業を履修する学生が、より身近で有益な情報を得ることができる場を提供する。そして学生が主体となってシラバスを作成するため、必然的に「他者に伝える」ということに対して深く考えさせることができる。「他者に伝える」ことに重点を置いて作られたシラバスを利用した学生は、身近で有益な情報を前に、より深く、真剣に授業について考える「きっかけ」を与えることができ、双方に新たな体験を提供することが目的である。

③教授図鑑

教授の生い立ちなどを学生が調べ、まとめて一冊の本を作成する。普段の授業では知れない教授の内面を知ることによって、教授と学生という立場で関わり合うことが多い両者の壁を取り除き、学生に親近感を持たせる。結果、教授に対し親近感を持った学生は、以前より意欲的に授業に取り組むことができるのではないかと推測した。

④SNSで決意表明

フェイスブックやラインなどの SNS サービスを使用し、SNS に自らの目標やなりたい自分と 1 週間のアクション、それから写真を SNS に投稿、自らの目標を他者に表明、実行するという案。目標に指定はなくどんな些細なことでも良い。この案が重点に置いているのは「有言実行」ができたかどうか、ということである。SNS サービスを利用する理由としては、他者に見られることで行動意識が高まり、自発的な行動が促せる為である。

⑤大学交流コンパ〜がっこん〜

今回の合同フォーラムにて、この発表をした学生リーダー会も一つの意識改革に繋がる「きっかけ」だったのではないかと、という意見を元に、学生リーダー会に参加していない学生にも同じ「きっかけ」を提供する場を作ることを目的とした企画である。他大学の学生との交流の場を設け、学生同士の新たな繋がりを作る。この新たな繋がりが、日ごろ学ぶ分野とは違う世界や知識を学生にもたらし、学生一人一人の視野が広がる。より多くの人と関わることによって学問だけでなく、様々な価値観や考え方を吸収してもらう。最終的には、一人一人が意欲的になれるような「きっかけ」とする。

⑥学生すけだちGP

常日頃から周りの学生を手助けしている学生に感謝の意を込めて表彰する企画。授業などでいつも他の学生を助けている優秀な学生の意欲向上が目的で、大勢の前で表彰されることで他の学生にも各個人の努力を周囲は見ている、ということを伝えることができる。これによって自分も周囲に貢献し、感謝されたい、と考える学生を連鎖的に増やしていくことが目的である。

⑦ランチタイムミーティング

教授、職員、学生の三者間の壁を取り除く事を目的としており、それぞれが持っている有益な情報や意見を交換する場を作る、というものである。三者間の壁が無くなることで、互いにより多くの刺激や情報が伝わり、学生の今後の目標形成や、やる気向上につなげることができる考えた。また、「時間を区切る」「学生の登校率が高いお昼の時間を利用する」「食事をしながらなので間をもたせやすい」といった要素を含ませることで、それぞれが参加しやすいようになっている。

以上7案が合同フォーラムにて発表した意識改革案である。何かの「きっかけ」を学生に提供することができれば意欲的な学生はより意欲的に、受身な学生、意欲的でない学生も意欲的になることができると考えた。意欲的になるには周囲の環境が重要であり、どのような学生であっても環境が変わればそれに適応していくことが可能であると結論付けた。そして「その環境を変える働きかけを学生リーダー会で行おう」という思いにより今回、提案した7案を元に合同フォーラム終了後も学生リーダー会は積極的に活動を行っている。後述にて、更に詳しい合同フォーラム終了後の学生リーダー会の活動報告の項目を設けている。少しずつではあるが、行動していくことが、いつか大きな行動の輪を作ることができる信じ、学生リーダー会一同、協力しあって取り組んでいきたい。

●「分科会 学生企画」総括

学生リーダー会企画の3カ年目ということもあり本企画は節目の年となった。その節目の年に学生リーダー会全員が協力し合い「行動から始まる私たちの大学～学生から学生に届けよう～」というテーマを本合同フォーラムで発表できたことは、非常に良い経験となったと感じている。私たち第三期学生リーダー会は4ヶ月という短い時間の中で合同フォーラムに向けて企画を完成させる必要があった。しかし、当初は組織の体系や個々の役割決めなど、様々な問題が私たちの前に立ちはだかり、思うように会議を進めることができず、6月頃に入りようやく動き出すことができた。白熱した議論を繰り広げる中「理想の大学」という言葉が多くの学生の口から発せられ、他にも「自分の大学についてもっと知りたい」、「他の大学が何をしているのか知りたい」など前向きな意見が挙げられた。それを踏まえ、どういった大学が私たちにとって「理想の大学」なのかを重点的に、さらなる議論を行った結果、「理想の大学」を実現させるには大学側に学生側が求めるばかりではなく「学生こそ行動を起こすべきだ」と私たちは結論付けた。

では、どのようにして「行動」するのか、その疑問の答えが、7つの意識改革きっかけ案である。前項、学生リーダー会の活動記録にて述べたとおり、この7つの案は学生の自発的な行動を促す、というのが目的となってくる。今回、学生リーダー会のメンバー自身が「最初の行動する学生」として、大学側が行っている企画の補助、または、学生リーダー会自身が企画し、大学側にも協力を仰ぐといった形で「行動」を起こしてきた。言わば、大学と学生の間を繋ぐパイプのようなものである。第三期学生リーダー会による「行動から始まる私たちの大学～学生から学生に届けよう～」はこの意識改革きっかけ案がなければ成り立たなかつただろう。

合同フォーラムを終えた今、第三期学生リーダー会を振り返り、反省点が二つある。それは企画段階での不適切な時間配分と、仕事の割り振りだ。初めてのことに手さぐり状態が長く続いてしまい、今何をするべきか、ということが明確に理解できず、全体にもその現状が伝わっていなかった。また、メンバーの一人一人に仕事を上手く与えることができず、一部の人間に負担が掛かりすぎてしまう結果となった。このような状態を招いてしまったことに非常に頭を悩ませたが、不思議なことに合同フォーラムの発表が迫ってくるとメンバー全員の足並みが揃い、一人一人が「行動する学生」としてメンバーを気遣い合う光景が見られた。多くの問題を抱え、途方に暮れた日もあったが、一つの目標に向け学生リーダー会一丸となって取り組めたことは間違いなくメンバー全員の成長に繋がった。

学生企画 行動から始まる私たちの大学～学生から学生に届けよう～

【参加者アンケート】

Q1 今回の学生企画について、全体的な感想をお聞かせください。

とても良かった…7人 良かった…10人 ふつう…2人

やや悪かった…0人 悪かった…0人

20人中 19人回答

Q2 学生企画の時間配分は適切でしたか？

適切…18人 不適切…2人

20人中 20人回答

Q3 学生が考えた意識改革案について、どの発表が印象的でしたか？

①あなたのお立場を教えてください。

企業様…2人 大学関係者…17人 学生…1人

20人中 20人回答

②意識改革案のなかで一番印象に残った発表を教えてください。

がっこん…2人 学生掲示板…1人 学生シラバス…5人

SNS 決意表明…1人 ランチタイムミーティング…1人

教授図鑑…1人

20人中 11人回答

Q4 本企画をどちらでお知りになりましたか？

大学内でのポスター…5人 知人・先生から聞いて…4人 インターネット…1人

午前からきていてたまたま…0人

その他…9人

20人中 19人回答

Q5 学生リーダー会に対し、ご意見、ご感想などございましたらご記入ください。(一部抜粋)

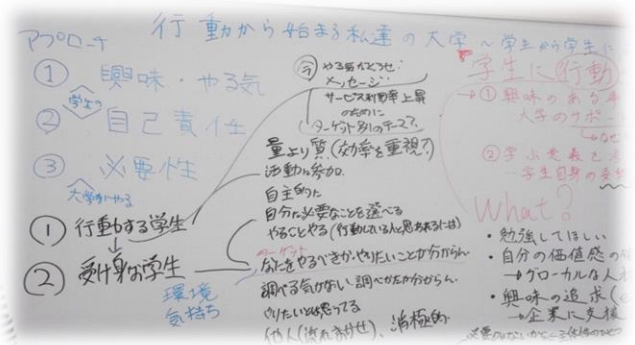
- ・実際に次の行動が決まっていっていいと思った。
- ・お疲れ様でした。たくさんの気づきが得られたと思います。この機会を大切にもっとはばたいてください。
- ・それぞれがいきいきとしていることが伝わってきました。今後も関わったメンバーで交流し助け合っていってほしいと思います。

(尚、回答の重複を防ぐため、複数回答は一つに絞らせて頂きました。ご了承ください)

リーダー会第三期初顔合わせ



目標・目的決めの日のボード



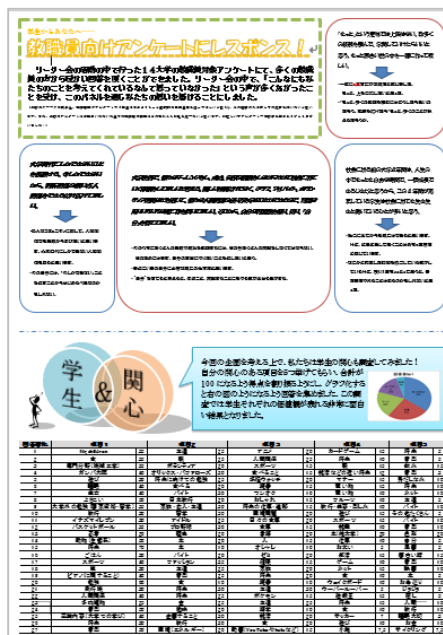
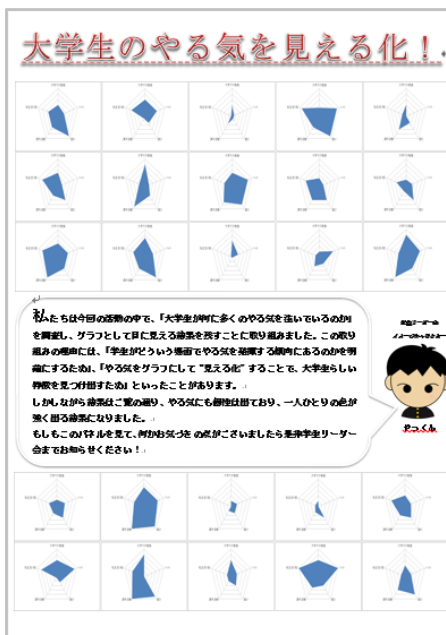
～日々の会議の様子～



～合同フォーラム当日の様子～



～パネル～



●合同フォーラム後の学生リーダー会の活動について

・はじめに

平成 26 年 9 月 8 日(月)に実施された、合同フォーラム「みんなでつくろう明日の人材」にて、私たち学生リーダー会は、約 60 分の発表の機会をいただいた。

そこで私たちは、“Try to act プロジェクト” と題し、「どうすれば、学生はより意欲的になるか」を考え、以下の 7 つの提案をした。

Try to act プロジェクト 意識改革きっかけ案一覧

①	学生シラバス
②	教授図鑑
③	ランチタイムミーティング
④	がっこん！ ～大学交流コンパ～
⑤	学生すけだちグランプリ
⑥	学生掲示板
⑦	SNS で決意表明

しかしながら、発表した以上の 7 つはあくまでもアイデアに過ぎず、本当に意欲的になるきっかけになりうるのか不透明だったこと。また、学生リーダー会三期生は当初、「実際に学生が変わるための、行動を起こしてみよう！！」という目標を掲げていたことから、この意識改革きっかけ案を実施する運びとなった。

・活動記録

合同フォーラム終了後は、全 6 回の会議が開催された。

合同フォーラムの発表時点で、きっかけ案③の「ランチタイムミーティング」、きっかけ案⑦の「SNS で決意表明」の 2 つに関しては実施が決まっていたが、新たに、きっかけ案④の「がっこん！ ～大学交流コンパ～」の実施が決まった。会議内容はがっこんの開催に向けた打ち合わせを中心となっている。

会議の日程および内容は次の通り。

日時	主な会議内容
10/26(日) 13:00～15:00	SNS で決意表明および ランチタイムミーティングの今後の方針について。
11/9(日) 13:00～15:00	がっこんで行うレクリエーションを考える
11/23(日) 13:00～15:00	がっこん当日の人数配置などの調整
12/14(日) 13:00～16:00	仮スタッフ資料を基に、がっこん当日の詳細決定。
12/20(土) 11:00～17:00	がっこんの前日準備

実施された意識改革きっかけ案についての詳細

ここから先は、実際に私たちが行った、意識改革きっかけ案について記す。

先に述べた通り、

きっかけ案③ ランチタイムミーティング

きっかけ案④ がっこん！ ～大学交流コンパ～

きっかけ案⑦ SNS で決意表明

の3つが実施された。

意識改革きっかけ案③

ランチタイムミーティング

【ねらい】

Try to act プロジェクトの一つであるランチタイムミーティングでは、「今の大学は、教授、職員、学生が互いにコミュニケーションをとれておらず、それぞれが持っている有益な情報や意見がなかなか伝わらない現状」にあることに注目し企画されたプロジェクトだ。これは、大学に入学したばかりの1年生は勿論のことだが、大学に馴染んでいるはずの2年生、3年生からも「授業などで接点があれば教授や職員の方にはなかなか話しかけにくい」という言葉が出た為に考え出されたものである。そこで私たちは、今よりも学生と大学の職員の距離が近くなることで、学生により多くの刺激や情報が伝わり、学生の今後の目標形成や、やる気向上につなげることができると考えた。また、「時間を区切る」「学生の登校率が高いお昼の時間を利用する」「食事をしながらなので間をもたせやすい」といった要素を含ませることで、大学職員、学生の双方の参加へのハードルを下げた。

【方法】

このプロジェクトを行う方法として、フォーラム時は「定期的に食堂の一角などに、教職員と学生のためのコミュニケーションスペースを設ける」と提案。しかし、各大学で行っていく上で、それぞれの大学に合わせた形で開催された。開催された大学の中には、食堂内ではなく屋外カフェテラスで行ったところもあった。

【実施日及び実施大学】

2014 年 9 月 18 日 追手門学院大学（食堂）  職員 1 名 学生 3 名	2014 年 10 月 7 日 大阪成蹊大学（カフェテラス）  職員 1 名 学生 4 名
2014 年 10 月 7 日 大阪工業大学（食堂）  職員 1 名 学生 3 名	2014 年 10 月 8 日 大手前大学（カフェテラス）  職員 1 名 学生 3 名
2014 年 10 月 16 日 関西外国語大学（キャリアセンター）  職員 5 名 学生 5 名	2014 年 11 月 12 日 大阪音楽大学（食堂）  職員 2 名 学生 4 名
2014 年 11 月 25 日 芦屋大学（食堂）  職員 1 名 学生 4 名	

【参加者への質問と回答】

Q.1 ランチタイムミーティングはためになりましたか？

- ・ 自分の職種以外にも、その職種に付随する他の分野の知識も習得して行かないとダメっていう話が、ためになったと思った！感想としては、普段ゆっくり職員の方と話せる機会はないから、ランチタイムミーティングは良い取り組みやなーと思った。
- ・ 教職員の人とのランチミーティングということで、先生からは貴重なお話を聞くことができ、こちらちょとした質問にも気持ち良く答えてくださったので、とても勉強になりました。どのお話もためになるものばかりでしたが、その中で私が特に印象的だったのは、事務職などその職種が行う仕事のイメージがあっても、実際にはもっと幅広い仕事を行っているということや、自分が希望する職種だけに捉われず選択肢を広げること、また、どの部署に配属されたとしてもコミュニケーション能力は必要であること、などでした。これから就活をする私にとって、人事のお仕事を経験された先生だからこそのお話はとても参考になり、良い経験となりました。

Q.2 意欲は掻き立てられましたか？

- ・ 別の分野の知識を習得していくのは大変そうやけど、頑張ろうと思った
- ・ 職業選択の視野が広がったことで、就活への意欲が湧きましたし、そこに向けての準備や、普段の授業なども頑張らなければと思いました。

【考察／まとめ】

今回このプロジェクトを行う上で一番ネックだった問題が「そもそも職員の方との繋がりが薄い中、どうこの企画を提案し実行するのか」だった。学生リーダー会に所属している学生の中には、大学の教職員との繋がりがあてり実行が容易だったという声もあつた反面、学生と教職員のみならず学生同士の繋がりも弱い為て開催は困難という声もあつた。

結果から見れば年度中に参加大学 14 校全てでの開催は叶わなかったが、実現された大学では多くの学生が有意義な時間を過ごせたと言える。このプロジェクトは開催をするまでの調節・交渉が最初の難関となり、次にそれを継続的に、またより良い形へと繋げていくことが重要だと言える。大型教室で行うような大規模な企画ではないものの、本企画は学生への刺激をピンポイントで与えることができ、また教職員の側には今の大学生を直接知ることができるという効果があつたと言えるだろう。

意識改革きっかけ案④

がっこん！ ～大学交流コンパ～

【ねらい】

他大学の学生との交流を実現し、学生同士の繋がりを作る。繋がりを作ることで、日ごろ学ぶ分野とは違う世界を知り、視野が広がる。最終的には、ひとりひとりが意欲的になれるようなきっかけとする。

【方法】

さまざまな大学から学生を数人集める。ゲームを通して仲良くなってもらった後、将来の夢など、学生生活にかかわる様々なことを語り合ってもらう。

【実施日時および場所】

平成 26 年 12 月 21 日(日) 13:00～16:00

大阪府立大学 i-site なんば

時間	内容
13:00 (5分)	開会のあいさつ
13:05 (10分)	チーム分け
13:15 (10分)	自己紹介
13:25 (10分)	歓談
13:35 (30分)	捕鯨船ゲーム
14:05 (5分)	休憩
14:10 (20分)	ゆめ交換会
14:30 (5分)	休憩
14:35 (30分)	秘密のグループワーク
15:05 (25分)	自由時間
15:30 (15分)	プレゼント交換会
15:45 (5分)	閉会のあいさつ

当日タイムスケジュール



告知ポスター

【当日の様子】

当初は 80 名ほどの募集であったが、実際の参加者は 20 名となった。序盤はややぎこちない様子も感じられたが、是が非でも他人と会話しなければならないチーム分けや、ゲーム形式で実施した自己紹介、さらに捕鯨船ゲームを経て、徐々に盛り上がりを見せた。秘密のグループワークでは「大学でやりたいこと、やっておきたいこと」というテーマで、チームごとに話し合ってもらったが、「海外に行くべき」といった真面目な内容から、「バカなことを出来る最後のチャンスだ」といった内容まで多種多様な意見があがり、白熱していたようだ。最後にはクリスマスも近

いということでプレゼント交換を実施。終了後には、参加者同士で連絡先を交換する様子が見られた。



※自己紹介の概要

誰かが自己紹介をしたあと、次の自己紹介者は、前の人の自己紹介を含めて、自分を紹介してもらった。これを繰り返す。

例)「バナナが好きな〇〇です」→「バナナが好きな〇〇の隣の、リンゴが好きな△△です」

※捕鯨船ゲームの概要

数人グループで列を作り、一番後ろの人を“船長”とする。船長以外は目隠しをして、前の人の肩を持つ。目の見えている船長は、前の人の肩をたたくことで指示を出す。たたかれた人は、さらに前の人の肩をたたき、船長の指示を伝える。列の先頭の人が、落ちている景品をつかみとれるように誘導する。絶対に声を出さずに行うため、事前にチームでしっかりと話し合っ、作戦を練らなければならない。

【参加者アンケート】

Q.1 がっこんに参加したことで、あなたは何か意欲をかきたてられましたか？

はい・・・20人 いいえ・・・0人

Q.2 (Q.1)でそう回答された理由を教えてください（一部抜粋）

- ・ 多くの人の夢を聞いて、とても楽しかったです。自分の夢に向かって頑張ろうというパワーと情熱をもらいました。
- ・ 色々な人と交流できたり、積極的にいろいろ話せたからよかったです
- ・ 他大学、他学部の人と交流をすることで、自分が経験した事のない話を聞けたり、自分の経験を話せて楽しかった。
- ・ 先輩方の話を聞いて、やっておいた方が良いことがよく分かったから。
- ・ 他大学の色々な人と交流を持てて、色々と刺激になった。
- ・ また参加したいです！
- ・ 旅行やコミュニケーションなど、自分の中にはない考えを知れてとてもよかったです。
- ・ 知らない人とあまり話せないと思ってたけど、予想以上に話せたから。
- ・ 楽しい話もためになる話もきけてよかったです
- ・ 先輩、後輩、様々なタイプの人と楽しい話ができたから。
- ・ 沢山のひとと楽しいお話が出来た。
- ・ みんな良い夢を持って、それに向かって努力しようとする姿に感化され、これからも自分も努力したいと思った。

Q.3 本日のプログラムで一番印象に残ったものはどれですか？（有効回答数・・・18）

グループ分け・・・0人	自己紹介・・・2人
捕鯨船ゲーム・・・7人	ゆめ交換会・・・3人
秘密のグループワーク・・・6人	

理由・・・（一部抜粋）

自己紹介ゲーム

- ・ 相手のことを知れて、その後の話の話題になったりして良かったです。

捕鯨船ゲーム

- ・ 目の見えない、話せないという中、初めてのメンバーでとても貴重な体験ができたと思います
- ・ やったことも聞いたこともなかったし、言葉以外でもコミュニケーションできる
- ・ 分かれたチームの結束力がここで固まったかなと思います。こういったイベントはとても楽しかったです。
- ・ 知らない人とやったけど、このゲームで一番親交が深まったと思いました。

ゆめ交換会

- ・ 人の夢を聞くことで自分の夢の実現をイメージできました

グループワーク

- ・ 自分が後悔したこともほかの人が思っていたり、やろうとチャレンジしている子もいると知れて楽しかったです。

Q.4 本日のご感想などあれば教えてください（一部抜粋）

- ・ 初めての人と話す機会がなかなかないので、とてもよい経験になりました。
- ・ フレンドリーで楽しかったです。もっとコミュカを磨こうと思いました。またこういった機会に参加したいなと思います。
- ・ コミュニケーションには色々な形があって、はじめての人とでも交流できてよかったです。
- ・ 相手に自分の言いたいことを伝えるのは難しいことだと思ったけど、
- ・ それと同時に受け入れて聞いてくれるという相互の作用が気持ちよかった。
- ・ 盛り沢山の内容で非常に満足することが出来た

Q.5 今後、このような他大学の学生と関われる機会があれば参加したいと思いますか？

はい・・・20人 いいえ・・・0人

【考察】

この「がっこん！ ～大学交流コンパ～」の企画の成り立ちは、「私たちは学生リーダー会を通して意欲的になったから、仮想リーダー会を作ろう」というものであった。そのため、ある意味この Try to act プロジェクトの要であり、最もイメージしやすい取り組みであった。ねらいで記した「他大学の学生との交流を実現し、学生同士の繋がりを作る」という点では、成功したと言えるのではないだろうか。実際に意欲的になるかどうかは、繋がりを形成した後の各々の学生の今後にかかってはいるが、きっかけとしては十分であると考えている。今後も継続していくことで、徐々に可能性を広げられる取り組みであるかもしれない。

【まとめ】

「がっこん！ ～大学交流コンパ～」は、きっかけ作りとしては上々の取り組みであると考えられ、今後の展開次第では“きっかけ”という枠に収まらない可能性も感じられる。

意識改革きっかけ案⑦

SNS で決意表明

【ねらい】

目標を SNS で発信し、常に他人の目を意識することで、取り組みをサボりにくくする。

【方法】

近いうちの目標と、達成するための手段を紙に書き、自分の姿とともに Facebook にアップロード。決められた期間内で、目標に向けての努力や反省など、経過も随時アップロードしていく。

【期間】

第一弾：9/8(月)～10/4(日) ※4 週間

第二弾：11/3(月)～11/16(日) ※2 週間

第三弾：12/2(火)～12/8(月) ※1 週間

【結果】

第一弾(9/8～10/4)の目標および結果一覧

一ヶ月の目標	途中経過の報告回数	成否
Speaking(英語)力をあげる	11	○
女子力を上げる	2	×
葡萄祭(学祭)を盛り上げる	2	×
朝の時間を有意義に使う	3	○
食生活をよくする	2	×
単語力(英語)をあげる	9	○
メールを素早く返信する	0	—
いま練習している曲を腱鞘炎を悪化させずに仕上げる	1	○
体の柔軟性を高める	0	—
中国語のフレーズ 60 コ覚える	0	×
体幹トレーニングを 1 ヶ月続ける	2	×
家にある読んでいない 5 冊の文庫本を全部読む	2	—
自動車教習を終える	0	—
筋肉をつける	5	—

第二弾(11/3～11/16)の目標および結果一覧

二週間の目標	途中経過の報告回数	成否
この2週間の食費を1万円以下にする	4	○
英語の熟語を1日に5語以上覚える	6	○
ボールペンで字を美しく書けるようにする	3	—
毎日1時間ドイツ語の勉強をする	1	—
バランスのいい夕食をとる	7	○
本を読む	1	○

第三弾(12/2～12/8)の目標および結果一覧

一週間の目標	途中経過の報告回数	成否
世界遺産について理解する。知識を身につける。	2	○

※第一弾、第二弾では学生リーダー会メンバーが。第三弾では、他の大学生に実施してもらっている。成否については、○は成功、×は失敗、—は報告なしとする。あくまでも「意欲的になるか」どうかを調べるため、各自の目標設定にテーマやルールは定めていない。

【考察】

第一弾では、一ヶ月という期間の長さからか、目標を達成できない人が相次いだ。しかしながら、失敗に終わった人の報告には反省点が述べられている場合が多く、なかでも「目標設定に無理があった」という意見が目立った。そこで、第二弾では期間を二週間に短縮。そして各自、第一弾での反省点を活かしつつ取り組んでもらった。この第二弾では、実施6人中4人が意欲的に取り組めたとの感想を残しており、どちらかといえば成功といえる出来であったと思われる。また第三弾では、学生リーダー会メンバーではない大学生(3年生・女性)に挑戦してもらったが、「鞆からゲーム機を抜き、代わりにテキストを入れるようになった」との報告があった。以上を踏まえると、「SNSで決意表明」は、それぞれの目標設定に依存する傾向があるのではないかと考える。

一方で、目標を立てていながら、途中経過や最終報告すらない挑戦者もいた。このことから、それぞれが持つポテンシャルや、元々もっている意欲が、結果を大きく左右するとも考えられる。以下は、第三弾で実際に取り組んでもらった方の感想である。

1週間チャレンジをしたことで、スキマ時間の使い方が上達出来たかな？って思います。
これは、決意表明したことで報告をすることによって出来ました。
チャレンジ出来て良かったです！

【まとめ】

「SNSで決意表明」は、ある程度の可能性は感じさせたが、「この取り組みをすれば意欲的になれる」というにはあまりにも不確定要素が多すぎる。

総括

実際に行ってみた3つの意識改革きっかけ案。「SNSで決意表明」はあまり納得のいく結果ではなかったが、「ランチタイムミーティング」と「がっこん ～大学交流コンパ～」に関しては、参加者から概ね好評を頂いている。特に、がっこんについては、イベント後にも、当日の参加者同士で交流があるということを聞いており、「学生同士の繋がりを作る」という面で大きな役割を果たしたようだ。

ただ、「意欲」というキーワードの元では、いずれの案も“個人の環境や感情に依存”する部分が多いのかもしれない。あくまでも全て「きっかけ案」ではあったが、直接的に意欲的に働きかけるのは、限界も感じる結果であった。だからこそ、一度で終わらせず、継続して取り組むことで、間接的に効果が表れることを待つ必要性があるのではないだろうか。

また、私たち学生リーダー会として、行動を起こすことの大切さを学ぶ一連の取り組みでもあった。今回にしても、過去にしても、合同フォーラムという場所と時間を与えられてきた私たちにとっては、この **Try to act** プロジェクトは新たな挑戦だった。

学生リーダー会を通して成長してきた私たちが、今度は他の学生のためにアクションする—

まだ先のことはわからないが、今後この活動が続いていくなれば、新たなステージに足を踏み入れるべき時が来たのではないかと思う。

平成 26 年度 学生リーダー会を終えて

●追手門学院大学 社会学部 2 年 清家佑介

①大学についての見方の変化

私は学生リーダー会と活動に携わるまで自分の大学にあまり興味がありませんでした。しかし、学生リーダー会の会議を通して様々な大学の学生の価値観などに触れ大学について少しずつ興味が湧くようになりました。自分の大学が発信している情報にも目を向けるようになり今では自分の大学の行っていることに積極的に参加するようにもなりました。リーダー会を通し、大学への見方は私にとって関心がないものから興味が湧くものへと変わったと言えます。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

私は人前で話すことがあまり上手くない人間でした。そのためその欠点を強みに変えたいという思いからリーダーという比較的大人数での前で発言が多いポジションにつきました。会議では毎回前で意見を汲み取って進行を進めたりしました。そして合同フォーラム本番では大人数の人の前で発表しました。このような経験は正直私にとっては辛かったです。しかしそれ以上にとても自分自身の成長に繋がる経験でした。私はリーダー会を終えてこれだけは言えます。私は学生リーダー会に出会う前と比べて人前で話す自信と勇気がつきました。その自信と勇気が私のリーダー会での人間的な意味での成長です。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか具体的に

私は学生リーダー会で得た勇気と自信を使い大学の後輩育成に役立たせたいです。これから私の大学に入ってくる新入生たちに自分の経験を生かし自分がリーダー会で得たような勇気と自信をつける助けを大学の後輩たちにしていければと考えています。後輩育成が私の成長にも繋がると考えているので残り 2 年の学生生活をリーダー会で得た経験を使い後輩と共に成長していければと思います。

●関西外国語大学 国際言語学部 2 年 中山真友花

①大学についての見方の変化

元々、大学に対して好印象を抱いていたのだが、今回、学生リーダー会の一員として活動することで、大学が学生に対し行ってくれているサポートやそのサポートが抱える現状というものを間近で見ることができた。見方としては余り自分の中で変化が無いように感じているが、発表テーマのサブタイトルにもある「学生から学生へ届けよう」を忘れずに、大学側が行っているサポートを利用し、他者に届ける、ということが続けていきたいと感じるようになった。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

変化ではないが、改めて「人は一人ではできないことがある」「自分は溜め込みやすく、他人を頼るのが非常に不得意」というこの二点を再認識した。今回、サブリーダーという役目を務めたことで、より顕著に自分の欠点が顔を出したのではないかなと思う。頼りになる先輩方や、リーダー会の仲間がいたことで非常に助かった場面も何度もあった。すぐにこの欠点を克服することは容易ではないと思うが、リーダー会での経験を思い出し、次に繋げていきたい。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか具体的に

①、②で述べたことを心がけて行動していきたい。来学期には三年生に進級するので、これを機により多くのガイダンスや講習会に参加したいと思っている。また、機会があれば、このようなガイダンスなどを開催する者として参加し関わってみたい。常に他者に何かを届けることができるように、一人で抱え込まず、仲間と協力し、切磋琢磨しながら行動することを心がけていきたいと思う。

●大阪成蹊大学 マネジメント学部 3年 河野裕子

①大学についての見方の変化

他大学の話を聞いていくうちに、就職のサポートや教職員との距離感など、他には無い自分の大学の良さを実感したことで、大学に対しての愛着がわいた。また、もっと自分の大学を良くする方法はないのかと考えるようになった。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

様々なタイプの人と出会ったことで、自分の弱さや強さを知った。そして、自分はまだまだ頑張れるはずだと、少し諦めが悪くなった。自分の限界を自分で作っていたことで見えるものも見えなくなっていたと気が付いたこともあり、まだまだ自分ならできるはずだと、自分を信じて頑張ることを覚えた。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのかできるだけ具体的に

先輩という、経験者という立場を今回体験したことで、全体を見渡す我慢強さを手に入れたと思う。また、リーダー会というプロジェクトに参加したことで、環境や考え方の違う人とのコミュニケーションをとる経験をした。その経験を生かして、今後はより様々なタイプの人との円滑な意思相통ができるようになりたいし、別のプロジェクトに参加していく中で、成功に導くための手助けができるような人間になりたいと思う。

●大阪工業大学 工学部 1年 奥村明日華

①大学についての見方の変化

大学職員に対するアンケートを通し、職員の方が学生のことをよく考えてくださっているということ、そして学生に期待をかけてくださっているということを実感しました。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

学生リーダー会では、議論をする機会が多く、人それぞれ多様な意見や価値観があるということを実感し、そのうえで自分の考えの伝え方とともに、他人の意見に耳を傾ける姿勢の大切さを学びました。また、メンバーがそれぞれの長所や能力を活かして助け合うことで、なんとか最後の発表を作り上げることができたことは大変感慨深く、人はやはり、助け合うことでより大きな力を発揮するものだを実感できました。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか具体的に

自分の考えを正確に伝える喋り方、相手の話を理解しようとする態度は何かを議論するとき以外にも、日常生活の中で人と関わる場面でいつも必要とされる能力なので、これからもいろんな人とのコミュニケーションを通して更なる向上を目指したいと思います。

●大阪工業大学 工学部 1年 津田仁成

①大学についての見方の変化

大学の職員の方もいろんな企画や施設を設けてくださっているが、それを学生が利用しきれていないと感じている職員の方がほとんどだったので、これから企画などにどんどん参加していこうと思った。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

会議で意見を交換しあう中で、自分が考えつかなかった意見がとてもたくさん出てきたので、素直に他者の意見に耳を傾けられるようになった。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか具体的に

他大学の先輩方と夢や意見を交換しあえた。上級生の方はより明確な目標をもっておられたので、将来を考える上でとても良い刺激になった。合同フォーラムで登壇し企画を発表できたので、人前に立って発表することの楽しさがわかった。もっと人前で話す経験を重ねて、緊張せず話せるようにしていきたい。

●芦屋大学 臨床教育学部 2年 畠田穰

①大学についての見方の変化

私は学生リーダー会に参加するまでは大学から学生への情報は少ないと感じていましたが、情報を大学は提供しているのに対して、学生は正確に情報をキャッチ出来ていないだけであると感じました。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

学生リーダー会に参加するまでは、人の前で話すことが出来ませんでした、しかし学生リーダー会に参加して、大勢の人の前で話す機会を得たことで、自分にも出来るのだと自分自身の自信にもつながりました。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか具体的に

私は学生リーダー会で学んだことを生かして、これからの大学生活で授業などの場で意見を求められたときに黙り込むのではなく、その場に合わせた自らの意見を主張できるようにしていこうと思います。

●大阪工業大学 工学部 1年 森元勇樹

①大学についての見方の変化

大学のサポートの手厚さを知り、大学からの熱いメッセージが学生に向かって発信されていることが強く感じた。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

会議を重ねていく中で、他の人たちがどのように物事を捕らえているかが分かり、自分の考え方に付加価値がついた。また、この企画に対してのそれぞれの熱意が伝わってきた。今までの努力ではその熱意には届かないことが分かり、更なる努力が必要だと改めて気づかされた。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか具体的に

リーダー会で学んだことはこれからの学生生活をどうすごすかの道しるべになった。残りの生活をどうすれば産業界に役立つ人材なのかを改めて考察し、これからの学生生活を生かしたい。

●帝塚山学院大学 人間科学部 3年 中谷信哉

①大学についての見方の変化

僕は学生リーダー会三期への参加を通じて、大学に関係する多くの人達がそれぞれ興味深い意見を胸に秘めていることを知った。そういった意見にこそ学生・大学・産業界の三者がより良い関係を築くための重大なヒントが隠されているので、これからも学生リーダー会のような活動を通じて皆の意見をどんどん見えるよう可視化していけば良いと思う。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

個人的な成長で言えば、仲間をサポートする力が身についたと思う。学生リーダー会二期で好き放題やらせて頂いた僕は、三期では新しいメンバー達が活動しやすいようにサポートすることを大切にしてきた。皆の意見を否定しないようにしたり、皆が苦手としている作業だけをあえて引き受けたり、自分なりに一步引いたところから仲間の活動を支えた結果、前を走るばかりがチームのためになるのではないということを学べた。これからも自分以外の人が輝いたからこそ、良い結果に結びついたと言えるようなサポートを心掛けようと思う。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか

学生リーダー会で様々な仲間達と沢山話し合いながら企画を作り上げたことにより、今まで以上にチームや企画が好きになった。これからの人生においては、この「好き」を武器にあらゆることに挑戦していきたい。

●和歌山大学 観光学部 2年 山岸 莉那

①大学についての見方の変化

大学ではこれまでの教育の場と違い求めればそのぶん多くのきっかけや挑戦するチャンスが与えられるのだということを再認識出来た。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

受動的ではなく自らが機会や出会いを求め、さらに努力することが必要だと感じた。自分の興味のない分野の話も聞いてみれば新しい面白さがあるということを知ったのもっとアンテナをはって過ごしたいと思う。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか

普通に大学生生活をおくっていても他大学の学生との交流をする機会はあまりないが、リーダー会でいろんな学生と意見を交換することができた。これまで出会うことのなかった意見をきくこともでき、新しい考え方にも繋がったため、今後の学生生活の中でもっと多くの人と交流していきたいと思う。

●大阪音楽大学 音楽学部 2年 長谷川華子

①大学についての見方の変化

リーダー会へ入る前は、まだどこか高校生のような気分で、勝手に周りがなんとかしてくれるだろうという考えがありました。しかし実際は大学では学生自らが行動しなければならない、それを薄々と感じ始めていた時期でもありました。そこでリーダー会の活動を通して、大学の先生方や職員の方が学生のために色んなイベントの開催、サポートをしてくださっていたことが分かり、また、自らが行動していくことの重要性を痛感しました。大学は自らが行動すれば、いくらでも自分の可能性を広げることの出来る場であるということが分かりました。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

社会へ出ていく身として、これからはしっかりと自分の考えを持ち、更に責任をもって行動していかなければならないと実感しました。それと同時に、客観的に物事をみていく必要も感じました。リーダー会では活動を通じて、様々な学生の考えを聞く機会がありました。その経験をしたことで、リーダー会以外の場においても、多面的なものの見方、客観的に物事をみることが出来るようになったと思います。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのかできるだけ具体的に。

私はリーダー会の活動を通して、自ら行動することの大切さを最も痛感しました。学生生活も間もなく後半に差し掛かり、将来について考えることが増えると思います。その時、リーダー会で学んだ自ら行動することの大切さを思い出し、大学生活では積極的に大学主催のイベントに参加するなどして、大学をもっと利用し、将来に向けて自分の視野を広げていきたいと思います。大学生活以外でも、自ら行動する。をテーマにして活動していきたいと思います。

●大手前大学 現代社会学部 3年 土井瑠子

①大学についての見方の変化

大学は学歴と環境を売っていると思っていましたが、今回の活動を通して産業界ニーズに応える働きも担っていることを知りました。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

自身が積極的に行動したいと考えていました。その取り組みの一つとして参加し、向上心の強い人たちと出会えました。所属する大学や私にはない部分をみて、行動しなければもったいないという気持ちが深まりました。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか

行動しなければもったいない。この気持ちを強く深めたのですが、話し合いでは、実際に行動している人は周りを見ると少ない。(または、努力の対象が人によって違うため気づきにくい)があげられました。ただ相手の行動力を引き出すだけでなく、組織として大きな結果を引き出すには同じ目標に向かって行動することが大切だと思います。従って、掲げた目標を共有できる人になりたいと思います。

●追手門学院大学 社会学部 2年 小崎 慎平

①大学についての見方の変化

自分が思っていたよりも社会のあらゆる分野に精通している人が多く存在していることに気づいた

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

目標達成のために今は何をすべきかを逆算して考えられるようになった

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか

将来的な仕事において、専門家だけでなく素人や第三者の意見や目線を大事にすることで、視野を広く物事に取り組もうと思う

●摂南大学 理工学部 4年 片山 優一

①大学についての見方の変化

「日々の自分の学生生活を見直すようになったこと」です。具体的には2つある。1.講義の取り組み方やモチベーション 2.職員、課外活動のメールを早く送り、返すように心がけるようになった。

②自分の考えの変化（①を更に具体的に書いた）

僕の変化は「自らが相手の立場になり「お互いで改善していこう」という意識を持って学生生活を過ごそうと感じたこと」です。きっかけは、大学職員が学生に対して「改善してほしい点」もあると実際に職員の口から聞いて理解したことからです。

③今後リーダー会で学んだことをどう活かしていきたいか

これから社会に出るので、他者や同僚の意見や価値観を傾聴して協調性を図り、少しでも組織の為に結果を残せるように、仕事をしていけるようにしたいです。

●帝塚山学院大学 人間科学部 4年 平山裕樹

①大学についての見方の変化

大学での学びについて物足りなさを感じ、違和感を覚えることもあったが、自分の行動次第で変わっていくのではと思うように。

②自分の考えの変化《人間的な意味での成長》

何事にも積極的に挑戦し、自分を高めていこうと思うようになった。

多少の度胸が身に付き、以前よりも自分に自信を持てるようになった。

リーダー会での活動を通して変わった自分を見てほしいと思うようになった。

③今後の自分はリーダー会で学んだことをどう活かしていくのか

少しでも自分がそうしたいと思ったならそうするように。何事にも積極的な姿勢で挑みたい。これから就職活動を控える身だが、学生リーダー会での活動を通じて得た喜びや学んだことを大切に臨んでいき、就職活動や残りの大学生活、その後の人生を通してよりよい自分へ成長していきたい。